

第111号

ひこね市議会だより



一般会計補正予算 2億6,363万5千円（減額）可決

下水道事業、老人保健事業、介護保険事業、後期高齢者医療事業の各特別会計補正予算など

9月定例会のあらまし

9月定例会は、9月6日から24日までの19日間の会期で開催し、提出された議案審議のほか、各会派の代表者および個人からの質疑、一般質問を行いました。

今期定例会に提出された市長提出議案は16件で、15件についてはいずれも原案のとおり可決・承認・認定・同意しました。なお、平成21年度彦根市各会計歳入歳出決算につき認定を求めることについては、決算特別委員会を設置し、閉会中の継続審査とすることとしました。また、議員提出議案は意見書案1件であり、原案のとおり可決しました。請願1件については、採択としました。



写真は、彦根駅東口駅前広場

- 9月定例会の結果.....2～3
- 中学校給食実施のための特別委員会中間報告 ..4
- 予算特別委員会・各常任委員会の審査状況 ..5
- 代表質問6～9
- 個人質問10～13
- ほかにもこんなことを質問しました.....13
- 決算特別委員会を設置しました13
- 議場コンサート開催14

9月定例会

予算関係 = いずれも可決

件名	概要
平成22年度（2010年度）彦根市一般会計補正予算（第3号）	補正予算額：2億6,363万5千円（減額） 経営体育成支援事業、介護保険基盤整備事業、児童扶養手当および特別児童扶養手当支給事業等の増額補正、下水道事業特別会計繰出金、都市計画道路整備事業費の減額補正、地方税電子申告システム利用業務（国税連携）の債務負担行為の補正
平成22年度（2010年度）彦根市下水道事業特別会計補正予算（第1号）	補正予算額：1,708万2千円（減額） 国の補助金が「社会資本整備総合交付金」に変更されたこと、および交付決定等に伴う減額補正
平成22年度（2010年度）彦根市老人保健事業特別会計補正予算（第1号）	補正予算額：57万4千円 老人医療給付負担金等の確定に伴う増額補正
平成22年度（2010年度）彦根市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	補正予算額：3,775万2千円 介護給付費負担金等の確定に伴う増額補正
平成22年度（2010年度）彦根市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）	補正予算額：1,499万8千円 後期高齢者医療広域連合への納付金等の増額補正

条例関係 = いずれも承認

件名	概要
専決処分につき承認を求めることについて（彦根市国民健康保険条例の一部を改正する条例）	国民健康保険法等の一部改正に伴い、特例を継続するなど所要の改正を行ったもの
専決処分につき承認を求めることについて（彦根市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例）	法令の改正に伴い、児童扶養手当の支給と公務災害補償の支給との受給調整の規定を設けたもの

決算関係 = 認定、継続審査

件名	
平成21年度（2009年度）彦根市立病院事業会計の決算につき認定を求めることについて	= 認定
平成21年度（2009年度）彦根市水道事業会計の決算につき認定を求めることについて	= 認定
平成21年度（2009年度）彦根市各会計歳入歳出決算につき認定を求めることについて	= 継続審査

9月定例会の結果

人事案件 = いずれも同意

件名	概要
彦根市公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて	門脇 良雄(かどわき よしお)氏(芹川町) = 再任
彦根市固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて	岡野 睦(おかの むつみ)氏(古沢町) = 再任
	河原田 和彦(かはらだ かずひこ)氏(京町三丁目) = 新任
	生駒 英司(いこま えいじ)氏(旭町) = 新任
彦根市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	田原 達雄(たはら たつお)氏(元岡町) = 新任

その他 = 可決

件名	概要
琵琶湖東北部広域市町村圏協議会の廃止に係る協議につき議決を求めることについて	市町村合併の進展等で広域行政圏施策は、当初の役割を終え廃止する方向性が確認されたことから、廃止に係る協議をするもの

報告

件名
損害賠償の額の決定について(6件)
平成21年度(2009年度)財団法人彦根市事業公社の決算状況について
第22期彦根総合地方卸売市場株式会社の決算状況について
平成21年度(2009年度)主要な施策の成果、事務報告書および基金運用状況報告書について
平成21年度(2009年度)彦根市の健全化判断比率等について

議員提出議案(意見書案) = 可決

件名
生産者米価の暴落に歯止めをかけるため、緊急に40万トン規模の政府買い入れを求める意見書案

請願 = 採択

件名
生産者米価の暴落に歯止めをかけるため、緊急に40万トン規模の政府買い入れを求める請願

中学校給食実施のための特別委員会 中間報告

中学校給食実施のための特別委員会を8月20日に開催しました。

委員会では、最初に市長を始めとする理事者から、

- ・市政全体の中での中学校給食実施の優先順位
- ・市長公約における中学校給食の位置付け

- ・給食実施の政策としての視点
- ・事業費用の見通しからの可能な財政負担の程度
- ・調理方法と建設手法・経営手法の検証

- ・平成20年3月議会で指摘のあった事項についての検討
- ・食育における学校給食の位置付け

- ・学校教育での給食の必要性
- ・給食実施が教師の負担増となることへの対策

市長からは、市政全体における中学校給食の実施について、優先順位は非常に高いが、

- ・景気後退に伴う税収の減少
- ・政権交代など大きな社会、経済の変化
- ・実質公債費比率の改善努力

- ・彦根駅東土地区画整理事業への投資、東中学校の改築、稲枝駅の改築等を先行せざるを得ない状況の発生
- ・など財政運営を無視できない状況となってきたとの説明があり、さらに、

- ・「食育」の視点から、中学生の年代であるからこそ実施すべきと考えていること
- ・「地産地消」の視点から、中学校給食に大きな需要が見込まれること

- ・「広域」の視点から、定住自立圏における地域活性化
- ・事業債を活用できる方向性

- ・で検討していること
- ・などの新たな視点が加わった

また、調理方式、建設手法、

経営手法に関し、

- ・調理方式は、財政面、設備面、また、各校同時の供用開始、さらには広域での実施を視野に入れると、センター方式しか考えられない。
- ・建設手法・経営手法は、広域的な調整の中で、一緒に取り組むたいという自治体があれば、PFI方式に関する過去の研究内容も説明し、協議していきたい。現時点では、枠組みづくりに取り組んでいる。

- ・との説明があり、その他の事項についても担当部局からそれぞれ答弁がありました。
- ・主な質疑としては、

- ・広域での取組の調整状況
- ・定住自立圏構想との関連
- ・具体的進捗が見えないこと
- ・実施の期限を切ること
- ・進捗状況の市民への情報開示
- ・担当する部局

- ・などがあり、これらに対する
- ・各町と調整段階であり、全てを明らかにできない状況であることを理解願いたい。
- ・進捗が見えないとの指摘があるが、同様の理由で、公開できない部分もある。
- ・財政状況から、定住自立圏構想の支援制度を活用したい。また、本市に有利な方法を選択すべきと考えており、期限を切ることではない。
- ・情報開示は市長が政治家として公開すべきであり、公共の媒体を使ってすべきではない。
- ・広域での枠組みが決定すれば教育委員会が担当部局になる。
- ・などがあり、
- ・また、センターの候補地として、彦根総合地方卸売市場の敷地も視野に入れているとの説明もありました。

答弁としては、

- ・各町と調整段階であり、全てを明らかにできない状況であることを理解願いたい。
- ・進捗が見えないとの指摘があるが、同様の理由で、公開できない部分もある。
- ・財政状況から、定住自立圏構想の支援制度を活用したい。また、本市に有利な方法を選択すべきと考えており、期限を切ることではない。
- ・情報開示は市長が政治家として公開すべきであり、公共の媒体を使ってすべきではない。
- ・広域での枠組みが決定すれば教育委員会が担当部局になる。
- ・などがあり、
- ・また、センターの候補地として、彦根総合地方卸売市場の敷地も視野に入れているとの説明もありました。

予算特別委員会

9月16日に開催した

委員会では、一般会計補正予算1件および特別会計4件の合計5件の議案審査を行いました。

容および時期

・都市計画道路立花船町線街路事業の減額内容

・ひこにゃんファンクラブの事務局

・下水道事業特別会の

繰入金減額による他

地域の工事实施の考

え方

・廃船処理

・夢京橋あかり館の改

装および展示内容

・社会資本整備の前倒

し実施

・踏切遮断機設置場所

等がありました。

採決では、原案のと

おり可決すべきものと

決しました。

- ・ひこにゃんの商標管理および契約期限
- ・がん検診の実績
- ・佐和山城跡整備の内

総務常任委員会

9月17日に開催した
委員会では、条例の一部改正の専決処分1件

および議決案件1件の計2議案の審査を行いました。

採決では、2議案とも異議なく承認・可決すべきものと決しました。

市民文教常任委員会

9月17日に開催した
委員会では、条例の一部

改正の専決処分1件の議案の審査を行いました。

採決では、異議なく承認すべきものと決しました。

福祉病院常任委員会

9月21日に開催した
委員会では、市立病院事業会計決算の1議案の審査を行いました。

審査では、DPC(診断群分類包括評価)導入による患者負担への影響および未収金との

関係、未収金回収に向けての取組、料金分納者の数、特別損失の除却費の内容、監査委員からの意見書に対する見解と取組、分娩再開および閉鎖病棟や診療制限の解消に向けた考

え方、損失解消への今後の方針、起債残高の推移と県補助金の内訳、支出額減少の内容等の質疑がありました。

採決では、異議なく原案のとおり認定すべきものと決しました。

産業建設常任委員会

9月21日に開催した
委員会では、水道事業会計決算の1議案および請願1件の審査を行いました。

水道事業会計決算の審査では、給水収益が

減少した理由、料金の低所得者への配慮、有収率低下への対応等の質疑がありました。

採決では、異議なく原案のとおり認定すべきものと決しました。

請願「生産者米価の暴落に歯止めをかけるため、緊急に40万トン規模の政府買い入れを求める請願書」の審査では、採択を求める意見が出され、採決の結果、不採択とすべきものと決しました。



新 公 政 会

質問者 馬場 和子

所属議員：10名

問 いい病院の条件は、一に親切・二に丁寧・三に優しい・四に安心・五に信頼。地域連携の基幹病院である彦根市立病院のスタッフの充足状況と、未充足対策を問う。受診のしおり記載内容の啓発と共に、診療制限に対する市民理解を深めることの必要性と、病院評価の高位診療科を広報し、他の病院にない特色ある診療科の創設が、経営環境の改善につながると考えるが見解を問う。

問 消えた高齢者問題・年間3万人超の自殺者・子育て不安からの幼児虐待・孤独死問題など、地域での人と人との交流不足に起因する悲惨な事件を防ぐための安全安心な地域の再構築が急務である。災害時の援護体制・民生委員児童委員の役割を補完する支援体制づくりへの見解や、近在の公民館等を地域活動や交流の核施設として活用するなど地域コミュニティ強化の手立てを問う。

Q 彦根市立病院の評価と将来の展望は

A 高評価を励みに使命を果たしていく

答 現在64名の常勤医と52名の非常勤医で診療。産婦人科・神経内科・心療内科・整形外科で不足。主な医局ルートその他、近隣県医大へも医師派遣を要請中。高等・専門的な診療のため一部の科で診療制限を行っている。病院機能評価で全国620病院中の高い評価をスタッフの励みに、病院改革プランを推進しながら、湖東地域の急性期の総合病院として、他病院との連携の中で使命を果たす。

Q 地域コミュニティ強化の手立ては

A 行政と住民の協働で、安心安全地域

答 安心のためには行政、地域住民の協働による地域の支え合いの仕組みが必要。災害時要援護者の登録者は1677人。提案の企業等との協定や見守りサポーター登録制度は、地域の見守りを補完する一手法と考える。地域住民の学習や交流の場である公民館では、住民の参画を得て、積極的に地域づくりを図る事業の企画運営をしていきたい。条件が整えば指定管理者制度の導入も考えられる。

- ・ ほかにもこんなことを質問しました ・
- ☆平成23年度当初予算編成について
- ☆高齢者福祉施設の充実について
- ☆住み慣れた地域での安寧を支える手立てについて
- ☆（仮称）彦根市まちづくり基本条例検討委員会の意見の取りまとめを受けて
- ☆芹谷ダムの必要性と、中長期整備実施河川について
- ☆彦根ブランドを残し、発信し、誘客し、リピーターを増やすために
- ☆ひこねっ子の教育環境改善のための取組について





新政ひこね

質問者 矢吹 安子

所属議員：5名

問 市立病院改革プランを策定して1年半が経過したが平成24年度の目標達成の見込みはいかがか。平成22年度の外来患者は減少、入院患者は増加する中、正規の常勤医師は49名で看護師も減少している。その確保策として働きやすい環境づくり、結婚しても働き続けられる環境づくりについての考えは。また、地方公営企業法の全部適用への移行も視野に入れて検討しているのか。

問 平成20年6月から「まちづくり基本条例検討委員会」が開催され、本年3月まで議論。基本条例は必要との結論から素案のたたき台を作成。5月には議会と7月には市長と意見交換された。条例を制定するためには市長が納得をして議会へ提案できるものに仕上げてもらいたいとのことだが委員会でも軌道修正を図ることは難しい。市としては今後どのような手法で舵取りを考えるのか。

Q 選ばれる彦根市立病院になるために

A 働きやすく働き続けられる環境に

答 DPCや7対1看護師配置基準の導入等により診療単価が上昇、医療収益は前年度を上回り、平成24年度目標の不良債務解消は達成できる見込み。退職者の3分の1が結婚、出産、育児を理由としており、24時間保育の実施や夏休みの学童保育の試行など行っている。さらに働き続けられる環境を整えていきたい。経営形態は様々な検討課題があり、引き続き調査検討を行う。

Q まちづくり基本条例の今後の手法は

A 条例を制定するには自助効果重要

答 基本条例は自治体の憲法と考えず通常の条例として既存の制度や仕組みをわかりやすく、利用しやすくインデックス化したものと考えられる。地方自治法等に規定された直接請求制度や住民訴訟、住民監査請求、さらに市長や市議会議員への立候補等の市民参加の方法をまとめた条例は必要であると思う。市民にも行政にも役立つ意義ある条例に。市長として納得でき議会も通る条例素案を待つ。

ほかにもこんなことを質問しました

- ☆平成23年度予算に向けて
- ☆彦根市総合計画について
- ☆ダムに代わる新たな治水対策について
- ☆危機管理体制について
- ☆入札方法の変更について
- ☆国道8号バイパスおよび306号バイパスについて
- ☆雇用対策の現状について
- ☆福祉に関連して
- ☆食育推進と学校給食について





ガバナンス21・ リベラル21

質問者 辻 真理子

所属議員：4名

問 湖東医療圏にある4つの病院は、それぞれの特徴を活かし、専門分野の医療に特化することにより、少ない医療資源を有効に活用することが期待されている。急性期から回復期、維持期、在宅医療への切れ目のない医療を提供するため、湖東医療圏の4病院の役割分担が必要である。その中で6月から開始された脳卒中の地域連携パスの試行運用とはどのような仕組みか。

問 建築基準法の改定により二項道路と言われる基準時に2戸以上の建築物の立ち並びがあるか、かつ、幅員が1・8m以上4m未満の道路の見直しが行われており、昭和30年代の航空写真で現在の二項道路と照合される。当時にその道路がなければ法定外道路となり、新築ができなかったり、土地の価値が下がるなど大変大きな問題が生じてくるが彦根市の緩和措置等の対応を問う。

湖東地域の脳卒中の 地域連携パスは

脳卒中の患者への切れ目のない医療

答 湖東地域における脳卒中の連携パスは6月から試行的に運用を開始した。対象となる患者は市立病院で急性期の治療を受けられた脳卒中の患者で、回復期、療養期は豊郷病院、彦根中央病院、友仁山崎病院で治療を受けていただく。それぞれの治療段階の評価などの情報をパスとしてつないでいくものである。これまで23人の方がこのパスにのっとり治療を受けた。

建築基準法改定で 二項道路の影響は

県等と協議し救済措置を検討する

答 昭和46年の都市計画法に基づく開発許可制度ができる以前に宅地造成が行われた片川以南から犬上川以北までの新興住宅地域に法定外道路が多く見られ、平成22年度末には市内全域の見直しや確認作業を終了する予定。現在、県内の特定行政庁が集まり、特例許可の取り扱いや手続きの簡素化等の救済措置の検討を始めており、全国的な問題でもあるので国にも強く要望していく。

ほかにもこんなことを質問しました

- ☆彦根市の財政状況と平成23年度への展望
- ☆お父さんの育児参加（改正育児休業法）について
- ☆彦根市における小規模工事等の発注について
- ☆多重債務者の救済はできるか
- ☆「彦根市災害時要援護者支援制度」の問題点
- ☆長寿世界一日本の不思議発見





日本共産党

質問者 成宮 祐二

所属議員：3名

問 学校現場は、休憩もほとんどナシ、授業が済んでも次の資料や報告の山に追われ、夜半までの仕事が毎日と言う状況にある。教職員の労働時間は、定時勤務時間を大きく超え一カ月80時間以上の超勤をしているのではないか。子どもの確かな学力を育てるためにも、健康保持が欠かせない。超勤の解消には、基本は教員の増員であり、35人学級の実施も必要である。対策はどうか。

問 市立病院受診のしおりが配布された。ここでも病院は第2次中核病院と位置付け、一般診療は「かかりつけ医に」としている。市民は、市立病院で診てほしいとの願いが強いが、なぜ一般市民の受診を敬遠するのか。この解決策は、医師・看護師の確保をすることである。特に産科医を増やして、産（婦人）科の再開をすることが強く望まれている。対応策はどのようなか。

Q 教職員の増員で
労働条件の改善を

Q 市民が受診しやすい
市立病院に

A 早期の教職員増員を要望していく

A 医師確保に努力し期待に応えたい

答 超過勤務の状況については、学校訪問や管理職からの聞き取りで把握している。超勤の主な理由は、教材研究、学級事務、生徒指導等だが資料作成など多くの仕事があることから、持ち帰りがあるのも充分承知している。教員増の問題は、中央審議会が40人基準を35人に引き下げる提言もしており、できるだけ早期に教職員の確保が実現されるよう要望していきたい。

答 病院は専門医の集団であるから、専門的で高度な診療に専念させてほしい、比較的軽症の方はまず診療所で診てもらってほしいとの考えからお願いしている。医師による分娩の再開は最も重要な課題である。県地域医療再生計画では、滋賀医科大学に寄附講座を開設し本院の産科医を確保することが目標の第一に掲げられており期待している。加えて医師確保の努力は幅広く続けていく。

ほかにもこんなことを質問しました

- ☆来年度予算編成の基本は「市民の暮らし応援予算に」
- ☆住みよい環境づくりに向けての取組を
- ☆安心できる福祉施策の充実を
- ☆鳥獣被害対策について
- ☆防災の日に寄せて



**弱者に届く
心のバリアフリーを**

問 児童生徒が安全で安心して通学できるバリアフリー化の推進状況と、未整備の学校等整備計画は。また、通学路の状況

藤野 政信



は、電柱が歩道の中にあつたり、段差がはげしくケガをする児童が多く危険箇所が多いが実態を調査し、改善を望む。

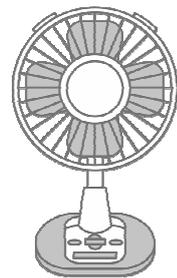
答 小中学校の整備状況は市内24校中22校で、幼稚園10園中6園で、保育園22園中18園で整備が完了され、未整備の施設は順次整備していく。また、家から学校までの通学路が子ども達にとって安全で安心して通学できるバリアフリー化を教育委員会・各学校が認識し、その改善に努めていく。

A 全施設完備と通学路の改善に努める

**小学校全教室への
扇風機の設置は**

問 日本は長期的な温暖化傾向にあり、猛暑・熱中症対策の強化が望まれる。夏場の学校の暑さ対策として、すべての中学校の普通教室に扇風機の設置は完了したが、小学校の全教室へも早急に設置すべきと考えるがどのように対応するのか。

徳永ひで子



答 中学校の扇風機設置に対しての生徒の声、教職員、保護者の意見・感想が好評であったことから、扇風機の設置は夏場の暑さ対策として効果があつたものと考えている。暑さ対応として小学校の教室においても、扇風機は必要であると認識しており、扇風機設置のため財源確保に努めていく。

A 設置のための財源確保に努めていく

**低炭素社会の
シンボル事業構築を！**



安藤 博

問 彦根市低炭素社会構築都市宣言後、広報ひこねで周知されてきたが、本年より掲載を取りやめた理由について問う。

答 一年半、掲載してきたが、ある程度の周知が図られたと判断したため。

問 まだまだ周知不足と認識しており、今後も掲載する必要があると考えるが見解を求める。

答 機会をとらえて広報ひこね等に掲載していく。

問 シンボル事業として観光と環境からレンタサイクルを充実し、電動自転車も普及してはどうか。

答 乗り捨て可能なレンタサイクルの仕組みづくりや、利便性の向上に向けた方法を検討していく。

A レンタサイクルの仕組みを検討する

**文化的・歴史的遺産を
次代に継ごう**

問 県立歴史博物館を本市に設置の提示から31年が経過した。流域下水道東北部浄化センター建設受入れ時の県との約束であったはず。現在、県教育長が県立歴史博物館は不可欠との見解を示し、代替地も含め2年後を目途に方針を示す意向と聞く。本市は今日まで県に対してどう対処されてこられたのか尋ねる。

杉本 君江



答 県事業の受入れ条件

であり、以降毎年県に対し直接面談を重ね要望してきた。今年3月に県教育長の「県内に歴史博物館は不可欠」との発言に本市に建設を強く要望しているところである。

問 今後も努力を求める。

A 改めて本市での設置を強く要望する

有馬 裕次



▲彦根市サイエンスプロジェクト

問 プロジェクトを推進する趣旨や成果の考えは。
答 理科離れをなくし将来の彦根市を支える子ども達が物づくりに興味を持つことから動機付けが

サイエンスプロジェクトの方向性は

推進は地元企業、教育関係機関と連携

あり、英語、数学、国語力、更にすでに必要とされているC言語をパソコンで使い総合的に習得する。すでに中学生は全国大会で準優勝しており精神力が鍛えられ、子ども達を大きく育てたい。
問 市民や地元企業にどのような利益を生み出すのか。
答 社会人はプログラミング言語などの知識を学習することで新たな就職を目指し、市の新たな地場産業を育成するという事で商工課も協議に入り地元企業に貢献したい。

山田多津子

問 住宅リフォーム制度は経済効果が数十倍とも言われ景気対策にも大変有効な制度であり、来年度も継続すべきと考える。
また、市民や業者の皆さんにも好評で、今年度申込みが247件で、補助対象110件であり、半数以上の130件がキャンセル待ちである。補助額の拡大と予算の増額を図るべきと考えるが。
答 来年度の事業継続は

住宅リフォーム制度の存続と拡充を

業者育成の観点からも検討していく



今後の経済状況や国の経済対策も視野に入れ検討していく。補助額の拡大は考えていないが、予算の増額は今年度予想外の申込みがあった現状から市内業者の育成の観点から勘案するとともに国の動向もふまえて検討していく。

田中 滋康



プレミアム商品券の発行を

財源確保できれば、発行を検討する

問 昨年5月と9月の2回「ひこねプレミアム商品券」が発行された。その経済波及効果を問う。
答 発行額は、何れも1億1千500万円で合計

2万冊発行した。即日完売し、発行した約60%分が中小の小売店で使用された。経済波及効果としては、参加店の30%が売上増につながる等、一定の効果があつたと考える。
問 プレミアム商品券を是非とも発行し、消費者や業者の期待に応えよ。
答 財源確保の点から、今年の実施を見送った。小売業者の経営は厳しい状況にあり、国の経済対策を注視し、好評なプレミアム商品券発行を検討する。

夏川嘉一郎

問 多くの都市で歴史文化まちづくりへの取組が加速している。対象は中心まちなみに止まらず、河川や農山漁村まで拡大。本市の目指すべき方向でもあると考える。推進には克服すべき課題も多いが最大課題は高層建築物乱立阻止にある。規制化への取組姿勢を問う。
答 本市は本来的に歴史文化の薫る城下町。国の歴史重視策に基づく諸法

歴史文化都市化は先ず景観保全から

歴史的景観への取組状況について



令を活用し本格的歴史まちづくりを目指している。特に景観では条例施行に伴い景観形成地域等の設定。建物の高さ等、新たな基準づくりに取り組んでいる。今後も地域と共に景観施策を推進していく。



ひも付き補助金からの 交付金化は

問 国土交通省は、補助金から一定自由に使用できる社会資本整備総合交付金に変更したが、本市の現状と考え方は。

答 従来の補助金と異なり計画内であれば他事業にも流用できる。返還や繰越の手続きを踏むことなく年度間の調整が可能など利点ある。関連社会資本整備事業や基幹事業の効果を高める効果促進事業についても交付金の

小川喜三郎

対象となるなど柔軟性に優れ使い勝手のよい交付金であると言える。一方では、交付金により総枠の削減を懸念する。制度設計がなされたばかりだが該当すると思われる事業は積極的に取り込む。



事業を精査し、積極的に取り組む



彦根口・川瀬馬場線の 早期完成を！

問 現在工事中の彦根口・川瀬馬場線については順次努力いただいているが、最終、川瀬馬場工区について現在行っている

野村 郁雄



る工事の内容は。

答 現在、水路等の構造物の工事を進めている。

問 県道三津屋・野口線との交差点に信号機が必要だと思いが設置されるか。

答 この交差点は交通量も多く危険であり、信号機の設置を進めている。

問 一日も早い完成を願っているがその予定は。

答 車道と片側の歩道の工事を早急に行い、平成23年3月には供用開始できるように最善の努力をしていく。



信号機を設置し来年3月には完成を



児童虐待防止の諸施策は 万全なのか

問 虐待相談件数、通告件数、通告経路の実態は。

答 相談は平成20年度94件、平成21年度89件。通告は平成22年4月から8月までで29件。経路は学

八木 嘉之

校から10件、次いで近隣住民からである。

問 子ども家庭支援ネットワーク会議は改善の余地があるのではないか。

答 会議の役割は、虐待防止の啓発や未然防止のための支援策の検討であるが、改善の余地はある。

問 通告に即座に対応可能なチーム体制の整備を。

答 平成20年4月に設置された要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議の他、必要に応じ関係者と連携を図り早急な対応に努めている。



要保護児童対策地域協議会で果たす



災害時食料毛布等備蓄や 機材整備は

問 災害発生時の食料・毛布の備蓄状況、機材の整備状況は。

答 防災備蓄品等は拠点避難場所と一時避難場所になっている市の施設に、毛布や備蓄食料および簡易トイレ等を空き教室などを利用し保管している。毛布1万5千枚、ろ水機17台、簡易トイレ60台、食料の備蓄はアルファ米など食料品が4万3千8百食分、飲料水について

小林 武

は1万3千本を保管備蓄している。また、市民の皆様には防災講習会等を通じて3日分の備蓄をお願いしているところである。



拠点避難所や市の一時避難所に保管



細江 正人

問 保育所へ入れず、入所待ちの状況はどうか。
答 近年、年度始めの待機児童数は30人前後で推移、就学前児童数は6千

松本 忠男

問 開院時間内に行っても診てくれないのはなぜか。
答 午前8時から午前11時までの受付時間内であれば、診療について受付をしている。ただし、整形外科と歯科口腔外科、神経内科は紹介状のない初診の方はお断りをしている。
問 閉院時間数分後に行っても診てくれないのはなぜか。

Q 希望者全員が保育所に入れるまでに

A 新設や増設を含め待機児童をゼロに

答 5百人前後の横ばいで推移、今後もこの傾向。共働きや一人親家庭の増加等により年度途中の入所申込も増加している。
問 待機児童0の方策は。
答 民間保育所の新設および増設も進んでおり、待機児童の改善が見込まれる。しかし、新設や増設は整備までに時間を要するため、入所可能な保育所での調整や、定員の弾力的運用、或いは既存保育所に対しての定員増の協力により待機児童の解消に努めていきたい。

Q 市立病院は職員の為に

A 紹介状のない方はお断りします



答 午前8時から午前11時までの受付が終了した後は受付はしていない。
問 診察を拒否した時の接遇はあまりに紋切型すぎないか。
答 受診をお断りする場合、受付では、丁寧に説明するよう指導している。

ほかにもこんなことを質問しました

- ☆「木の学校づくり」の推進に向けて
- ☆新しい福祉への取組は
- ☆高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画実施の現状について
- ☆リサイクルの推進について
- ☆公の卸小売業への支援、まち方のガンバリ
- ☆旧港湾の改善対策について
- ☆自殺対策について
- ☆学校教育について
- ☆更なる情報提供に向けて
- ☆経済状況悪化時における自主財源確保策に関して
- ☆小・中学校への空調設備の充実を

- ☆放課後児童クラブについて
- ☆就学援助制度の充実を求めて
- ☆生活道路、交通安全施設の維持及び改良を求めて
- ☆市民の命と健康を守るために
- ☆県下で最低の投票率の向上について
- ☆未成年者の喫煙対策や受動喫煙防止対策について
- ☆経営改革の取組について
- ☆彦根市居宅サービスの充実と現状について
- ☆高齢化社会を迎える中での防災体制・見直しを考える
- ☆学校ICT化について考える
- ☆彦根市を元気にし、活気あるまちづくりのための企業誘致について

- ※ ○ 〓 副委員長
- ◎ 〓 委員長
- | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|----|----|----|----|----|
| 山田 | 小川 | 西川 | 野村 | 田島 | 辻 | 馬場 | 有馬 | 夏川 | 佐野 | 山口 | 山吹 | 矢吹 | 細江 |
| 田中 | 川喜三郎 | 川正義 | 村郁雄 | 島茂洋 | 真理子 | 和子 | 裕次 | 嘉一郎 | 正博 | 大助 | 安子 | 正人 | |
| 田多津子 | 滋康 | | | | | | | | | | | | |

平成21年度彦根市一般会計特別会計の決算審査のため、決算特別委員会を設置しました。

決算特別委員会を
設置しました

議場コンサートを開催しました

市議会では、会派を超えた議員有志による議会開放推進プロジェクトチームを組織し、市民に開かれた議会づくりを進めています。

その取組の一環として、9月定例会開会日の9月6日(月)に第8回議場コンサートを開催しました。

今回は、真木玉子とその仲間(真木玉子さん・真木 武さん)をお招きし、ピアノ独奏により、「乙女の祈り」、今年が誕生200年のショパンの曲「ノクターン嬰ハ短調」、「荒城の月」などの日本の抒情歌4曲、ギター独奏により、「愛のロマンス」、「帰らざる河」などアンコールを含めて10曲を30分にわたって演奏を行いました。



つていただきました。議場には、多くの方々にお越しいただき、心と体に響く二人の心のこもった演奏により時を忘れてひとときを過ごしていただきました。

第9回

議場コンサート(予定)

日時 平成22年11月29日(月) 13時から
場所 彦根市議会議場(市役所5階)
出演 女声合唱 彦根水すまし
内容 コーラス
曲目 クリスマスソングなど
その他 詳細は広報ひこねやホームページでお知らせの予定です

次の定例会は 11月です

9月定例会は延べ60人が傍聴



本会議の日程(予定)

開 会 11月29日(月)
 個人質問 12月6日(月)
 個人質問 12月7日(火)
 個人質問 12月8日(水)
 閉 会 12月15日(水)
 いずれも9時から開催予定

委員会の日程(予定)

予 算 12月9日(木)
 市民文教 12月10日(金)
 福祉病院 12月10日(金)
 産業建設 12月13日(月)
 総 務
 ◆印の委員会は14時から、それ以外は9時から開催予定

編集後記

紅葉の秋になり、四季のある日本、そして日本のほほ中心で琵琶湖に抱かれ、自然に恵まれた彦根の素晴らしさをあらためて感じる事ができた夏であった気がします。これからの季節、市民の皆様、ごついで自愛ください。

今年の夏は、本当に厳しい暑さであり、彦根でも35℃を越える猛暑日がありました。また、9月に入っても暑さは続き、年配の方にお聞きしても、今までの経験にはない暑さであったとのこと、まさに酷暑の日々でありました。しかし、このような暑い中でも彦根城には観光客を始め市内外から多くの方にお越しいただきました。ひこねさんも暑さに負けずに皆さんをお迎えして、訪れる方にひと時の癒しを分けてくれました。この秋は、夏が暑すぎた分、いつもの年より爽やかで、風も心地よく感じます。